

令和5年度 外郭団体 評価シート

団体名	公益財団法人 静岡市文化振興財団	所管課	文化振興課
設立目的	演劇、舞踊、美術、音楽、科学、歴史、生涯学習等の文化振興に関する事業を行い、市民が各種文化に触れる環境の整備と市民自身による文化創造活動を促進し、もって魅力ある静岡文化の創造、継承、発信に寄与することを目的とします。		
団体の役割	<p>1 市民が各種文化及び本市の歴史に触れ、理解と関心を深める機会の提供          ・演劇、舞踊、美術、音楽、科学、歴史等質の高い文化鑑賞の機会と誰もが身近で気軽に芸術文化を楽しめる機会及び本市の歴史に触れる機会を提供すること。          ・各種文化、本市の歴史について理解と関心を深める機会を提供すること。          （市の役割：静岡市文化振興計画等を推進すること。長期的な視点に立ち、文化施設等の整備を行うこと。）</p> <p>2 学習活動を通じた市民主体のまちづくりの推進          ・市民の自発的な学習活動を支援することにより、学習活動を通じた地域の交流及び連携を図り、市民主体のまちづくりを推進すること。          （市の役割：静岡市生涯学習推進大綱を推進すること。長期的な視点に立ち、生涯学習施設の整備を行うこと。）</p> <p>3 市民自身による創造的な文化・学習活動に対する支援          ・活動成果を発表する場や、「人と人」、「アーティストと市民」など多様なモノ・コトが出会い・つながる「場」の提供・情報発信をすること。          ・「しずおか文化」の担い手となる個性や創造性を発揮できる人材、地元を誇りや愛着を持つ人材の育成、支援を行うこと。          ・各種文化学習活動を行う団体、専門機関等との連携体制及び人的ネットワークを構築すること。</p>		

《経営計画書 取組状況》

1 団体の取組状況

(1) 団体における取組と結果

施策	評価指標	目標値	実績	備考
文化をはぐくむ人づくり	文化鑑賞事業実施数	52事業	64事業	
	文化鑑賞事業鑑賞者数	180,000人	304,410人	
	育成支援事業の実施数	45事業	79事業	
団体意見	<p>長く続いたコロナ禍が一旦の区切りを迎えたこともあり、多くの文化鑑賞事業・支援育成事業を計画・実施した。事業の参加者数についてもコロナ禍明けで全体的に回復が見られ、3つの評価指標全てで目標を上回ることができ、多くの市民に多彩な事業を提供できたと考える。</p> <p>静岡市美術館展覧会「さくらももこ展」では、観覧者数目標23,000人に対して49,369人に達する等大きな成果を上げた。また、静岡市歴史博物館における「学校教育への支援事業」、生涯学習センターにおける「市民主体のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材養成事業」等、人づくりの観点から数多くの事業に取り組んだ。</p>			

<p>関係課意見</p>	<p>(文化振興課) 事業実施数、鑑賞者数ともに目標値を上回っており、幅広い鑑賞事業を実施することで文化を享受する機会や選択肢を充実させている。また、鑑賞事業のみならず、各文化施設において所管分野ごと特色のある育成支援事業に取り組んでおり、子どもから大人まで幅広い世代を対象とした事業を展開できている。しかし、鑑賞者数の目標値はコロナ禍で設定されたものであり、コロナ禍が明けた現在、さらに高い目標を設定されたい。今後も「人づくり」の視点での事業を継続していくことで文化活動の継承と担い手育成に寄与することを期待する。</p> <p>(まちは劇場推進課) 市民の「観る活動」や「演じる活動」の事業実施について、財団の持つノウハウや専門性を活かすことで、来場者と参加者の両方から高い評価を得ることができている（市民参加型舞台公演事業：来場者満足度96.4%、参加者満足度100%）。 コロナ禍がひと段落し市民の文化活動への関心が回復傾向にある中で、より豊かで継続的な文化体験を提供できるよう、引き続き協力・連携していきたい。</p> <p>(歴史文化課) 歴史博物館で実施している育成支援事業は、学校見学への受入れや授業支援など、地域の歴史を発信する重要なものである。引き続き、重点的に取り組むことを期待する。</p> <p>(生涯学習推進課) 生涯学習事業（講座等）については、現代的課題を扱った講座や、文化施設との共催、大学・行政機関・地域との連携等これまでに培われたネットワークを活用して幅広く事業を企画実施している。また、人材養成事業にも取り組み、市民主体のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材養成に努めている。 引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、社会情勢の変化に対応した生涯学習活動及びまちづくり活動を着実に推進されたい。</p>			
<p>施策</p>	<p>評価指標</p>	<p>目標値</p>	<p>実績</p>	<p>備考</p>
<p>文化がはぐくむ地域づくり</p>	<p>普及啓発事業実施数</p>	<p>600事業</p>	<p>676事業</p>	
	<p>普及啓発事業参加者数</p>	<p>130,000人</p>	<p>258,152人</p>	
	<p>利用者満足度（静岡市歴史博物館）</p>	<p>85.0%</p>	<p>88.0%</p>	
<p>団体意見</p>	<p>各施設において多彩な文化・生涯学習事業を実施し、いずれの目標も達成することができた。特に、普及啓発事業参加者数についてはコロナ禍明けも手伝って目標を大きく上回る成果を上げた。普及啓発事業は、文化事業・生涯学習事業の実施を通じて、地域文化への理解、地域文化の発信、地域コミュニティの形成等を推進するものである。引き続き、当法人の強みである「地域性」を活かして多様で質の高い事業の実施に注力していく。</p>			

2

関係課意見

(文化振興課)  
各施設において、地域資源にスポットを当て魅力向上に資する事業を企画・実施ができています。例えば、静岡市美術館にて開催された「さくらももこ展」や「どうする家康展」の関連事業では本市の地域資源を市民に広く周知することができ、今後も、地域に根差した財団のネットワークを活かし、「地域を知る」・「地域を伝える」を軸にした事業を積極的に取り入れ、継続していくことで、地域で文化を育み継承し活用・発信する契機に繋がっていくことを期待する。

(歴史文化課)  
歴史博物館で実施する普及啓発事業は、ガイドツアーや歴史出張講座など、静岡の歴史観光を発信する重要な事業が含まれており、重点的に取り組んで欲しい。また、歴史博物館利用者満足度が88.0%と高水準であり、参加者要望に対する博物館職員の迅速な対応が満足度に反映されている。引き続き、来館者目線の運営を期待する。

(生涯学習推進課)  
生涯学習事業（講座等）については、現代的課題を扱った講座や、文化施設との共催、大学・行政機関・地域との連携等これまでに培われたネットワークを活用して幅広く事業を企画実施している。また、人材養成事業にも取り組み、地域コミュニティの活性化に努めている。  
引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、地域を支える自発的な活動につながるような生涯学習事業及びまちづくり事業を着実に推進されたい。

3

団体意見

施策	評価指標	目標値	実績	備考	
文化でつながるまちづくり	入館者数	静岡科学館	250,000人	190,290人	
		静岡市美術館	300,000人	286,128人	
		静岡市歴史博物館	500,000人	284,115人	
	利用者満足度	静岡市民文化会館	85.0%	85.7%	
		静岡音楽館	85.0%	91.1%	
		静岡科学館	85.0%	89.4%	
		静岡市美術館	85.0%	96.0%	
		静岡市歴史博物館	85.0%	88.0%	
		静岡市民文化会館施設利用者数	250,000人	375,944人	
		静岡市民文化会館稼働率	70.0%	62.9%	
		静岡音楽館施設利用者数	70,000人	83,122人	
		静岡音楽館稼働率	70.0%	69.2%	
	<p>入館者数、施設利用率については一部未達となったが、いずれも前年度、前々年度との比較では増加しており、コロナ禍からの回復の途上にあると考える。アウトリーチ事業や新規事業の展開によって幅広い層へ積極的にアプローチし、既存利用者層の減少を取り戻すだけでなく新規利用者層の開拓も進めていく。 市民文化会館の改修工事にあたっては、施設を利用してきた多くの市民の文化活動を途切れさせることのないよう対策が必要と考える。</p>				

<p>関係課意見</p>	<p>(文化振興課)  入館者数や稼働率において、前年度や前々年度と比較するとコロナ前に回復傾向にあるが戻りきらず、目標値には到達していない。施策1「文化をはぐくむ人づくり」や施策2「文化をはぐくむ地域づくり」での事業成果を活かし、入館者数向上に努めるとともに、文化でつながるまちづくりの実現に寄与することを期待する。  また、静岡市民文化会館再整備に伴う休館期間においては市民の文化芸術活動を途絶えさせないような仕立てを検討していくことが求められる。</p> <p>(歴史文化課)  入館者数の目標が達成できなかったことは、年間を通しての開館初年度であり、認知度の向上が課題であると考えられる。認知度の向上に向け、積極的な博物館の情報発信をしてほしい。利用者満足度については施策2に記載のとおり。</p>			
<p>施策</p>	<p>評価指標</p>	<p>目標値</p>	<p>実績</p>	<p>備考</p>
<p>文化でにぎわうまちづくり</p>	<p>連携事業の実施数</p>	<p>40事業</p>	<p>30事業</p>	
<p>観覧者数</p>	<p>静岡市美術館</p>	<p>120,000人</p>	<p>133,039人</p>	
<p>観覧者数</p>	<p>静岡市歴史博物館</p>	<p>141,000人</p>	<p>83,294人</p>	
<p>観覧者満足度</p>	<p>静岡市美術館</p>	<p>85.0%</p>	<p>96.0%</p>	
<p>観覧者満足度</p>	<p>静岡市歴史博物館</p>	<p>85.0%</p>	<p>91.7%</p>	
<p>事業参加者満足度</p>	<p>静岡市民文化会館</p>	<p>85.0%</p>	<p>94.5%</p>	
<p>事業参加者満足度</p>	<p>静岡音楽館</p>	<p>85.0%</p>	<p>97.9%</p>	
<p>事業参加者満足度</p>	<p>静岡科学館</p>	<p>85.0%</p>	<p>99.1%</p>	
<p>事業参加者満足度</p>	<p>静岡市美術館</p>	<p>85.0%</p>	<p>96.0%</p>	
<p>事業参加者満足度</p>	<p>静岡市歴史博物館</p>	<p>85.0%</p>	<p>88.1%</p>	
<p>団体意見</p>	<p>観覧者及び事業参加者の満足度は高い数値を獲得しており、市民にとって魅力ある事業を実施できたと考える。引き続き魅力ある事業の実施に取り組むとともに情報発信に努めて観覧者の増を図り、まちのにぎわいづくりに貢献していく。</p>			
<p>関係課意見</p>	<p>(文化振興課)  指標として設定している静岡市美術館・静岡市歴史博物館において、観覧者数は前年度比で増加しており、その他文化施設においても前年度比で利用者数は増加しており、コロナ以前に戻りつつある。すべての施設において参加者満足度の目標値を達成できていることから、多岐にわたる分野において質の高い文化事業を継続していくことで、文化事業による交流が活性化しにぎわい創出につながっていくことを期待する。  また、設立30周年記念プロジェクトの一貫である「新文化島1.5」では、当法人が指定管理を担っている利点を活かし、各文化施設及び生涯学習施設で連携した事業を実施することで多くの方が参加し、にぎわいづくりに貢献した。</p> <p>(歴史文化課)  観覧者数の目標が達成できなかったことは、年間を通しての開館初年度であり、認知度の向上が課題であると考えられる。積極的な博物館の情報発信を期待する。観覧者及び事業参加者の満足度は高水準であり、引き続き満足度の維持を期待する。</p>			

	施策	評価指標	目標値	実績	備考	
5	生涯学習推進事業	生涯学習団体の新規立ち上げや既存団体の活動支援を目的とした事業数	33事業	52事業		
		各種講座、講演会等開催数	550事業	604事業		
		各生涯学習センター施設利用者数	480,000人	512,612人		
		各生涯学習センター稼働率	40.0%	43.7%		
		利用者満足度	86.5%	97.0%		
		受講生満足度	86.5%	91.6%		
団体意見	<p>各種講座、講演会等の実施に精力的に取り組んだほか、生涯学習団体の新規立ち上げや既存団体の活動支援を目的とした事業を多数実施して利用者数の増を図った。結果、利用者数を含む全ての評価指標において目標を達成することができた。多くの人が集い、学び、交流する場として生涯学習センターが機能するよう、取り組みを継続していく。</p>					
関係課意見	<p>(生涯学習推進課) 令和5年度について、施設利用者数は前年度と比較して増加しており、満足度も高い水準を保っている。事業については、最善の事業実施ができており、受講者満足度も高く、さらにシチズンシップに富んだ人材養成やデジタルデバイドの解消に関する試みも実施している。 引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、生涯学習活動及びまちづくり活動を着実に推進されたい。</p>					
6	歴史資源を活かした学習及び交流促進事業	静岡県歴史博物館入館者数	500,000人	284,115人		
		静岡県歴史博物館有料展示の観覧者数	141,000人	83,294人		
		静岡県歴史博物館利用者満足度	85.0%	88.0%		
	団体意見	<p>年間を通して通常開館を行う初めての年度であり、歴史資料の展示はもちろん、多彩な体験型イベントや学校教育への支援事業等幅広い事業展開を行った。大河ドラマ放送による歴史への関心の高まりもあったものの、入館者数は284,115人に留まった。尚、累計入館者数50万人は6月23日に達成している。</p>				
	関係課意見	<p>(歴史文化課) 入館者数に対する有料展示観覧者数の割合が29.32%と低いことが課題である。令和6年度から、展示等の見直しを実施しているが、有料展示観覧者数の向上に向け、積極的に取り組んで欲しい。利用者満足度については施策2に記載のとおり。</p>				
		施策	評価指標	目標値	実績	備考

(2) 取組全体の総括

外郭団体	
<p>長く続いたコロナ禍も一旦の区切りを迎え、市民の活動が本格的に再開、当法人においてもほぼ全ての事業をコロナ禍以前の規模で実施することができた。一方で、市民活動・文化活動の中には担い手不在のままとなってしまうものもあり、施設利用者数や利用率に表れている。今後新たな層の開拓等、中長期的な視野を持った対応が必要になると認識している。</p> <p>その様な中、法人設立30周年を契機としたプロジェクト、「笑顔 デ カケル プロジェクト」を開始。全施設で各種プレ事業を実施した。当法人の「専門性・地域性・総合性」を活かす取り組みとして、法人一丸となって推進に努めていく。</p>	
静岡市	
<p>利用者満足度、事業参加満足度については全ての指定管理施設において目標値を上回っており、各分野において市民のニーズに沿った事業を展開している。今後も、各文化施設の指定管理者として法人の専門性を活かし、人づくりや地域づくり事業の積極的な展開に期待したい。</p> <p>一方で、施設の稼働率や来館者数については、コロナ以前の数字に戻りつつあるが目標値に達していない施設が多く、今後も新規利用者の増加につながるような取り組みを期待する。</p> <p>また、文化芸術アウトリーチ事業等を、特別支援学校や静岡県視覚障害者情報支援センター等を含め実施しており、第2期静岡市文化振興計画において主軸となっている、社会的に弱い立場の人達を含めた「誰ひとり取り残さない機会の提供」を意識し、文化事業による社会参加の実現に向けた取組も行っており、市の文化政策に沿った事業展開がされている。引き続き、市の文化政策のパートナーとしての役割を期待する。</p>	

2 団体の財務・人員の状況

(1) 収支状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	増減理由等補足事項
収入	事業収入	2,139,859,678	2,347,396,827	歴史博物館の通年での業務開始
	事業外収入	210,920,113	187,148,745	
	その他	0	0	
	合計	2,350,779,791	2,534,545,572	
支出	事業支出	2,123,378,386	2,236,374,658	歴史博物館の通年での業務開始
	事業外支出	156,529,730	272,140,552	
	その他	0	0	
	合計	2,279,908,116	2,508,515,210	
収支差		70,871,675	26,030,362	

(2) 正味財産（純資産）の状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	増減理由等補足事項
収入	経常収益	1,957,064,618	2,101,329,056	歴史博物館の通年での業務開始による増
	経常外収益	87,516,000	141,200,734	新型コロナウイルス感染症・光熱費高騰の影響に伴う指定管理料の増額
	その他	0	0	
	合計	2,044,580,618	2,242,529,790	
支出	経常費用	2,040,692,477	2,137,050,050	歴史博物館の通年での業務開始による増
	経常外費用	8,652,430	2,593,517	
	その他	0	0	
	合計	2,049,344,907	2,139,643,567	
収支差		-4,764,289	102,886,223	

(3) 資産の状況

区分		R4年度決算	R5年度決算	備考（増減理由・内訳等）
資産	固定資産	1,293,612,834	1,382,130,078	
	流動資産	511,782,818	702,585,285	
	合計	1,805,395,652	2,084,715,363	
負債	固定負債	234,098,840	243,368,095	
	流動負債	299,626,626	466,956,759	
	合計	533,725,466	710,324,854	
正味財産	基本財産／資本金	225,000,000	225,000,000	
	剰余金等	1,046,670,186	1,149,390,509	正味財産のうち基本財産以外の全額を計上
	合計	1,271,670,186	1,374,390,509	

(4) 職員数の推移

年度	種別	職員種別			合計	増減理由等
		市OB	プロパー	その他		
R4	常勤	16	124		140	
	非常勤				0	
	臨時		78		78	
	合計	16	202	0	218	
R5	常勤	15	131	2	148	歴史博物館開館に伴う増加及び市職員の派遣
	非常勤				0	
	臨時		74		74	
	合計	15	205	2	222	
R6	常勤	15	127	2	144	生涯学習施設におけるパートタイマーの削減等
	非常勤				0	
	臨時		68		68	
	合計	15	195	2	212	

(5) 財政・人員体制の現状分析・課題

- ・指定管理業務等において、人件費の上昇や物価高騰による影響が大きく、財政面でのリスク要因となっている。
- ・静岡市からの業務発注に応じた採用活動を行ってきたため、正規職員の年齢層が30代から40代に集中しており、幹部職員の育成が急務となっている。
- ・静岡市民文化会館の休館による業務減少が見込まれており、職員の再配置と財源の確保が課題となっている。

(6) 分析結果や課題を踏まえた団体における財政・人員体制の見通しと今後の取組

- ・施設利用料金やチケット収入の確保、助成金・補助金の獲得等に加え、寄附制度の更なる周知やクラウドファンディングの活用等、新たな策も講じ、収入の確保に努める。加えて、継続的な業務改善による経費の節減を行い、財務基盤の安定化を図る。
- ・幹部職員養成のための研修の実施、管理職への登用を行い、OJTを中心とした職員の育成を図る。
- ・業務の増減に対応した定員管理と採用活動を行って、変化に強い柔軟な職員体制を維持する。

3 全体総括・評価
外郭団体
<p>コロナ禍による利用者数の落ち込みを取り戻すことが喫緊の課題と考える。従前の利用者層だけでなく、新たな利用者層へのアプローチのための、新たな事業展開・施設運営も必要となる。</p> <p>静岡市の指定管理者制度に関する方針・外郭団体に対する方針について、静岡市と課題解決の方向性についての認識を共有しながら、具体的な取り組みを進めていく。</p> <p>財団の強みである「専門性・地域性・総合性」を活用し、さらに伸ばすための取り組みとして財団設立30周年記念事業「笑顔 デカケル プロジェクト」を企画し、プレ事業にも着手している。令和6年度の財団設立30周年に向け、法人一丸となって取り組みを加速させていく。</p>
静岡市
<p>事業の取り組み状況や利用者・参加者満足度の高さから、文化施設・生涯学習施設の指定管理を横断的に担う団体として、ネットワークやノウハウを活かした効率的かつ効果的な運営により、市民サービスの向上に資することができる。</p> <p>民間企業等との連携した展示や事業実施に積極的に取り組んでいる。また、当法人の人的・財政的・組織的基盤の確立のための取組みがなされている。社会情勢や静岡市民文化会館の休館等外的要因はあるが、計画的に実施されていくことが望ましい。</p> <p>「施設」という枠を超え横断的に実施している設立30周年記念プロジェクトでは、当法人の創意工夫による自発的な事業の企画・実施に積極的に取り組んでいる。自主事業を通じた経験が、若手職員の人材育成やスキルアップに繋がり、各施設運営にフィードバックされていくことを期待する。</p>

#### 4 市への要望・意見（外郭団体記載）

<p>設置から30～40年を超える施設もあり、施設・設備の老朽化が著しい。毎年、施設改善要望書を作成して各所管課へ提出し、課題認識の共有を図っているが、多くの箇所改善が進んでおらず、対応に苦慮する場面も多い。</p> <p>指定管理者の決定（議決）が3月と遅く（内定も1月）、準備期間が不足しがちである。また、文化・生涯学習施設では中長期的な観点からの取り組みが必要とされており、他都市では指定管理期間を標準（5年間）よりも長い期間とする事例も見られる。他都市の状況も踏まえ、指定管理期間の長期化と選定期間の前倒しについて検討を希望する。</p> <p>利用者数（≒利用料金収入）の増加やコスト削減についての実績が、次期指定管理期間の目標・積算等に直接反映されるため、指定管理者が高い目標を掲げてそれを達成すると、それが指定管理料を減少させる構造になっている。社会情勢も踏まえた適切な目標の設定等により、指定管理者の経営努力の成果が指定管理者側にも反映されるインセンティブの設定を希望する。</p>
---

#### 5 外郭団体への要望・意見（所管課記載）

<p>令和4年度に静岡市が策定した「第4次静岡市総合計画」、「第2期静岡市文化振興計画」、「第3次静岡市生涯学習推進大綱」に即した政策の実現に向け、引き続き静岡市のパートナーとしてその具現化に取り組んでいただきたい。</p> <p>特に、第2期静岡市文化振興計画の柱となる「誰一人取り残さない」ための文化事業や生涯学習事業実施を目標とし、アウトリーチ事業・これまで対象としてこなかったジャンルや新規層の開拓に取り組むこと。また、オンライン技術を取り入れた効果的な事業実施方法についても検討を進め、生活の基本である家や職場・学校以外の実空間に捉われない様々な形の文化による第3の居場所を創造し、引き続き、社会的に弱い立場の人達を含め誰ひとり取り残さない機会の提供を継続し、文化事業による社会参加を実現するための多彩な文化政策を展開していくことを期待したい。</p>
---